
地平線の灰皿

朔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地平線の灰皿

【Nコード】

N3672Q

【作者名】

朔

【あらすじ】

「ぼく」と「彼女」の日常的な風景。
煙草にまつわる一風景。

「足の踏み場もない」

と、彼女はぼくに言った。ぼくの部屋に行ってみたいと言いだしたのは彼女自身だったのに。ぼくは「あまりおすすめはしないよ」とそのとき小声で呟いた。

そんなわけで、ぼくにはその言葉は案外予想がついていたといっても間違いではない。

誰がこの部屋をどのような角度から見ても、また哲学的な見方や経済的な見方をしてみても、きつと誰もが彼女と同じ言葉を吐くだろう。足の踏み場もない、って。水の中で、どんなひとが息を吐き出しても、どれもが同じように球を形作るように、そのつぶやきはきつと同じ。

「この部屋って新手のアトスペースかなにかみたいね。乱雑に散らかっているのか、もはやそうでないのかもわからないくらいに」「そんないいものじゃないよ。適当に座って」

と、ぼくは部屋の真ん中にある無機質なガラステーブルを指差して言った。座る場所がない、と彼女が言ったので適当に雑誌とか横にどけて座って、と返した。

彼女は雑誌を一冊一冊ていねいに積み重ねて部屋の隅に寄せた。そういう彼女の几帳面なところがぼくは大好きだ。もちろん好きなのを列挙しろと言われればいくらでもするけれど。彼女は全てが最高だった。ぼくにももったいなかったけれど、だからこそ手放すことはこれから先、一生しないと思う。そういう予感がする。

ぼくは雑誌を乱雑に部屋の隅に寄せて、座った。同時にタバコに火をつけた。

あぐらを組んで座ると彼女と目線があう。ぼくは少し照れて目線を斜め下に向けた。

目の前のガラステーブルに乗っているのは灰皿だけだった。その

灰皿には、今にもこぼれんばかりにタバコの吸い殻が積み上げられていた。それを見るやいなや、ぼくは今吸っているタバコを次にどこに突き刺そうかを思案しはじめる。色々な方向から眺めて、ここはどうか、いやでもこれだと落ちるかもしれない、ではあちらかなどというように。

「もう立派なオブジェね」と、彼女が言った。

「うむ」と、ぼく。

「名前でもつけようかしら」と彼女が言ったので「なんて名前？」と返した。

「そうね……『地平線』なんてどうかしら」

「『地平線』？」

「灰皿っていう地平線から、どんどん太陽がせり出してくるみたいじゃない？」

「なるほど」

「それに、まだ成長過程なんでしょう？」

「うむ、どうかな。ぼくがこのタバコをうまくこいつに突き刺すことができれば、今こいつは成長過程ということになるだろうけれど、もしも崩してしまったら、こいつは胎児に逆戻りってことになる。生まれてもないことになってしまうね」

「出るか、沈むか」「朝か夜か、だね」

「きみは面白いね」

「うむ。よく言われる」

「変わってるねとも？」

「それもよく」

ぼくはそう答えたあと、少し考えて、タバコをオブジェの一点めがけて突き刺した。

ジュ、つという音がかすかにして、面白いようにタバコはその一点におさまって、しばらく白い煙を吐いて、やがて何も吐かなくなつた。しかしきつと、中ではまだ燃えているに違いない。

「成長過程だったってことになるね」とぼくは呟いた。

「朝だったのね」と彼女は笑った。まるでなにか今まで経験したことのないシヨーを見たかのように、いつまでも笑っていた。彼女の薄い腹が、服の上からでも小刻みに震えているのがわかるほどだった。ぼくも無性におかしくなって笑った。笑いながら抱きしめ合ってそのままキスをした。互いの歯がぶつかって音が響いてしまうほど笑っていた。笑いを収めようと、ふたり同時に深呼吸をした。そのまま、舌を噛まないように入念に下調べをして、深い深いキスをした。朝まで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3672q/>

地平線の灰皿

2011年1月23日21時13分発行